

3 スポーツクラブ・同好会・チーム

3-1 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況

スポーツクラブや同好会・チーム（以下、スポーツクラブ）への加入状況をたずねた。

図3-1は、スポーツクラブ加入率の年次推移である。

全体をみると、調査を開始した1992年の加入率は19.7%であった。次の1994年は16.9%に減少した後、2000年までは上昇が続き22.0%に達した。しかし、再び下降傾向となり、2006年には18.4%となっている。10年前の2008年を起点に追うと、2008年20.6%、2010年18.8%、2012年19.7%、2014年20.0%、2016年18.1%、そして今回の2018年調査では18.5%であった。1990年代から2000年代前半にかけての上昇と下降の後、直近では1992年の調査開始当初と同程度の水準に留まっている。

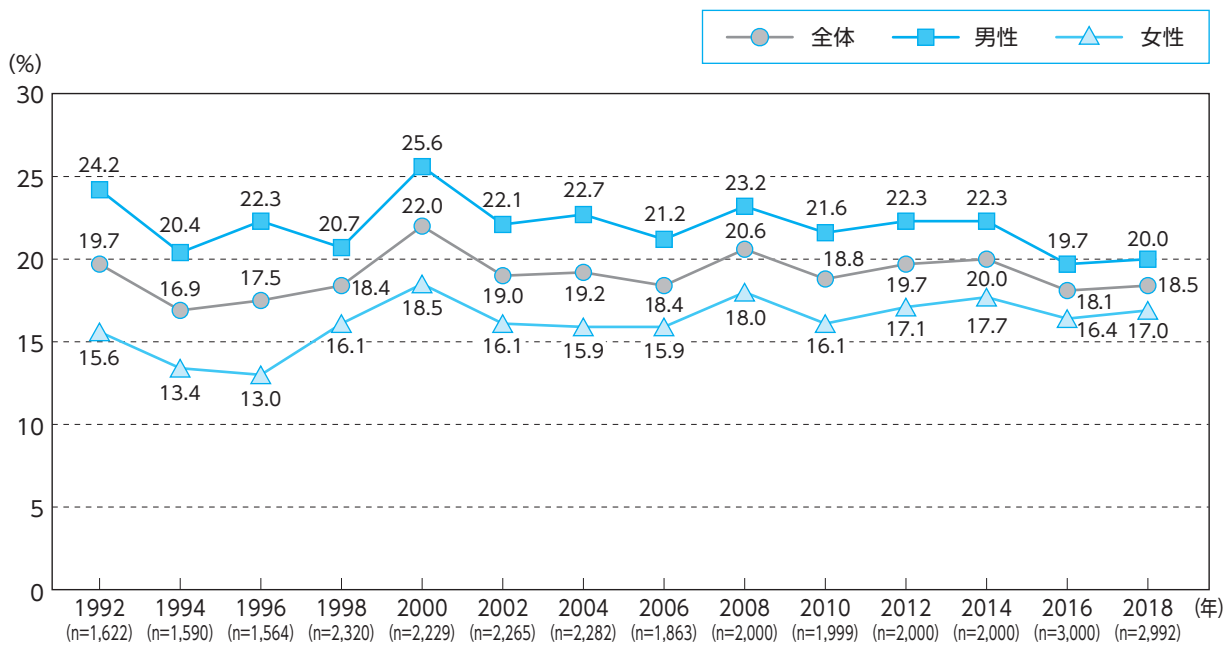
ただし、性別にみると、1992年は男性24.2%、女性15.6%と8.6ポイントの差があったが、今回の2018年調

査では男性20.0%、女性17.0%となり、加入率の男女差は3ポイントにまで小さくなっている。

図3-2は、性別や性・年代別の加入状況の詳細を示した。全体をみると「加入している」（加入者）は18.5%で、「過去に加入していたが、現在は加入していない」（加入経験者）は23.9%、「これまでに加入したことはない」（加入未経験者）は57.6%であった。

性別にみると、男性の加入未経験者が53.6%に対して、女性の加入未経験者は61.6%と8ポイントの差がある。

さらに性・年代別にみると、男性の加入者は18・19歳の27.0%から60歳代の17.0%へと年代が上がるにつれて低くなる傾向がみられるが、70歳以上では24.9%と高くなっている。加入未経験者は、18・19歳を除き、いずれの年代も5割台である。女性の加入者は20歳代が9.1%、30歳代が10.2%と少なく、加入未経験者は7割近い。男性とは反対に20歳代以降、年代が上がるにつれて加入率が高くなっている。70歳以上では23.6%となり、男女差も1.3ポイントまで縮まっている。



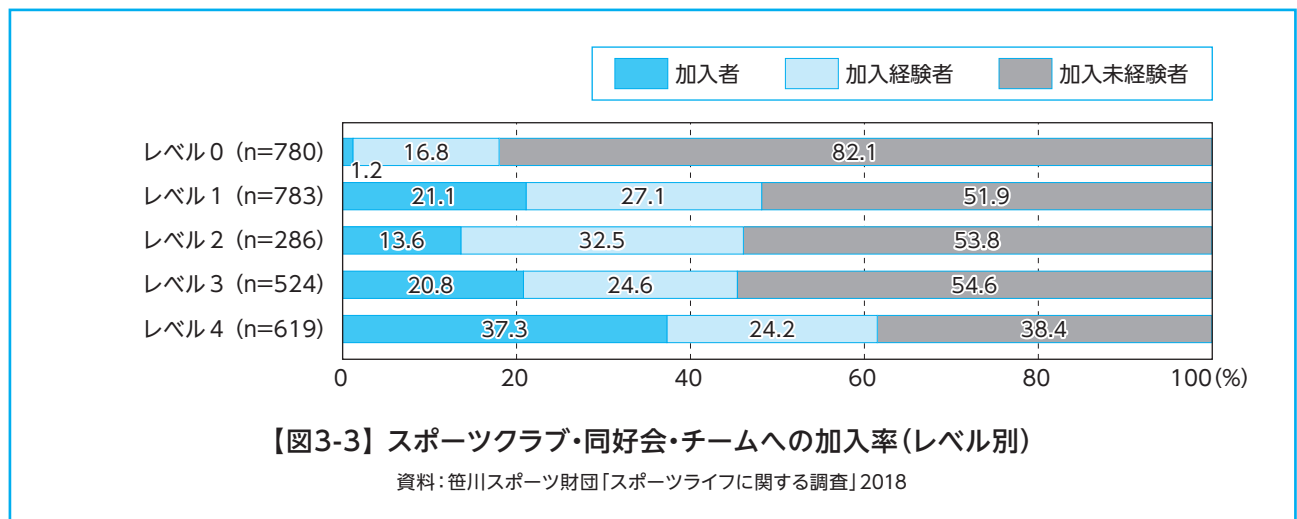
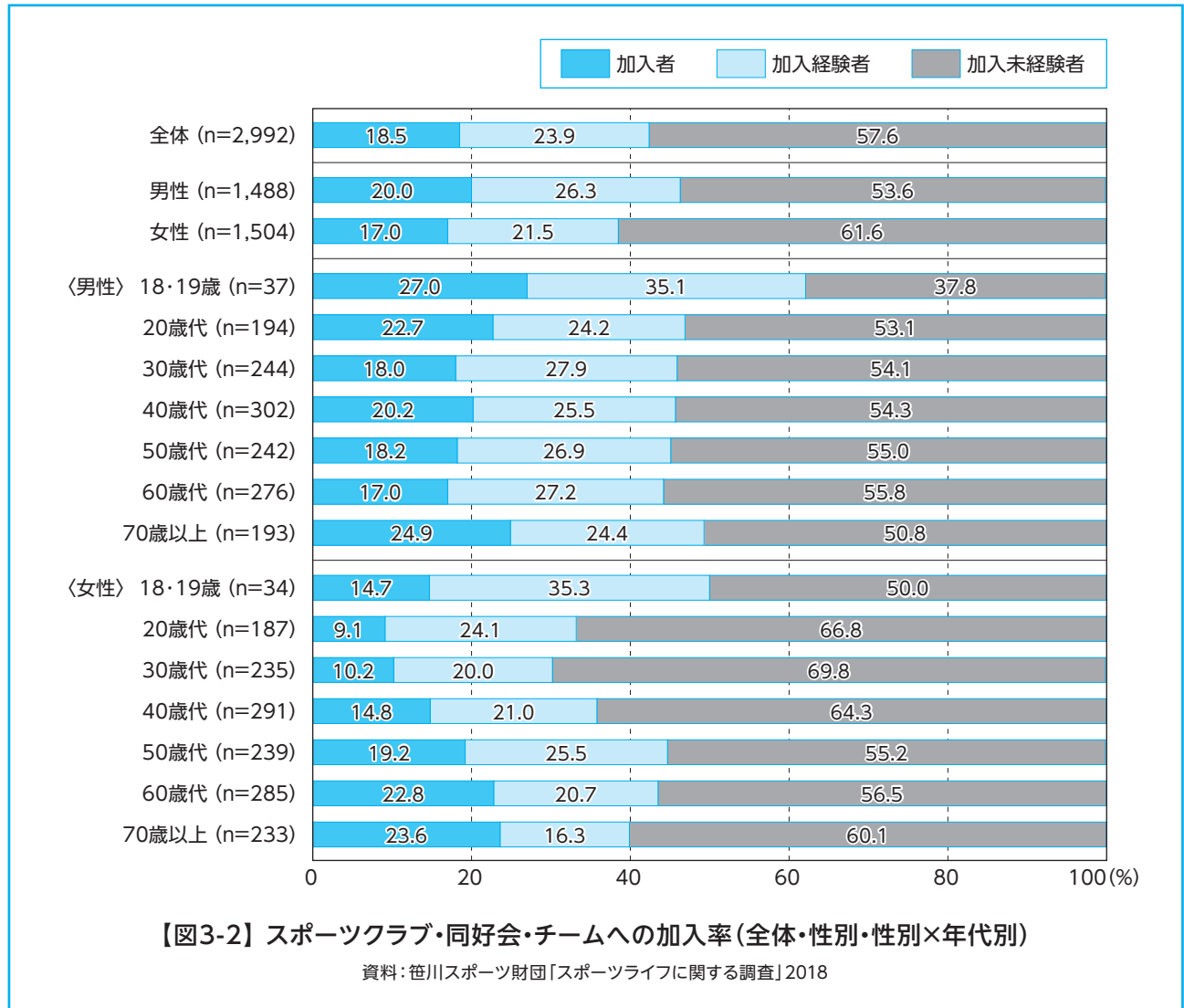
【図3-1】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入率の年次推移(全体・性別)

注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

図3-3には、運動・スポーツ実施レベル別に加入状況を示した。「レベル0」は加入者1.2%、加入経験者16.8%、加入未経験者が82.1%となり、加入未経験者が8割を占める。「レベル1」から「レベル3」までの加入

未経験者は5割と、差はみられなかった。「レベル2」以上の加入率はレベルが上がるるとともに高くなっている。「レベル4」は加入者が37.3%と他のレベルよりも高く、加入未経験者は38.4%と最も少ない。

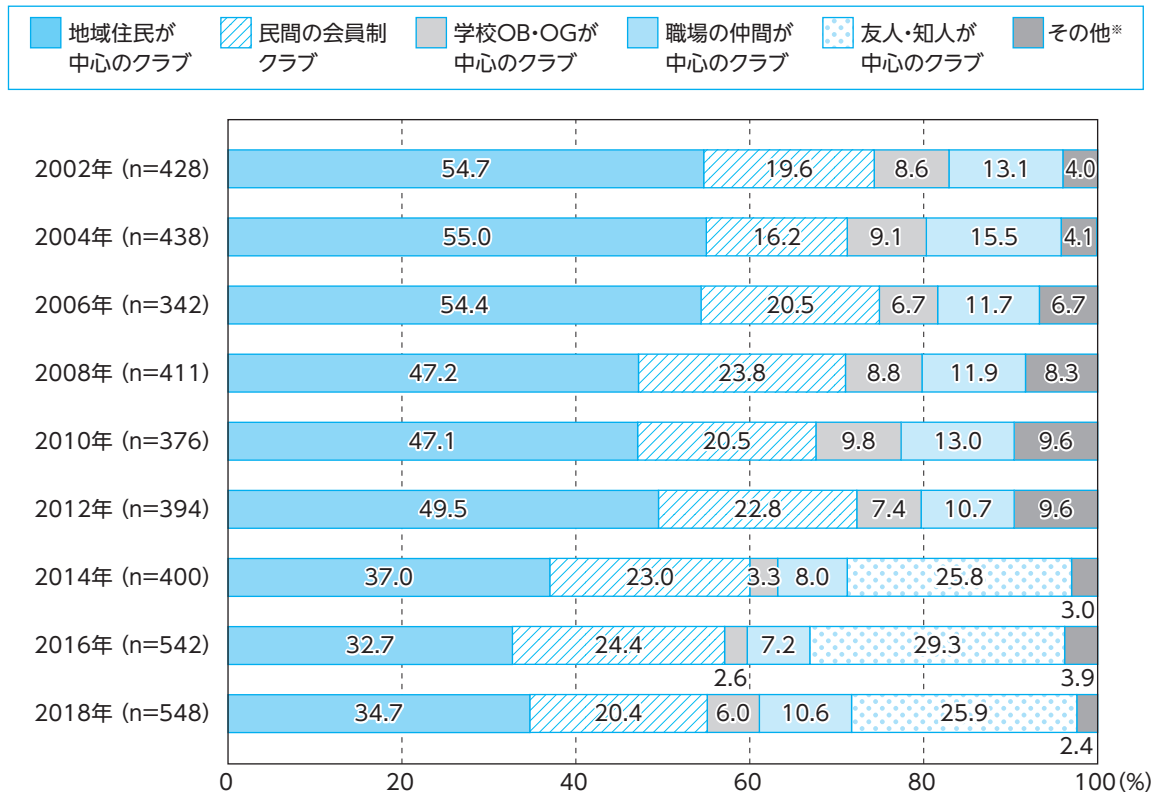


3-2 スポーツクラブ・同好会・チームの形態

スポーツクラブ加入者に、その加入しているスポーツクラブはどのような人たちの集まりかをたずねた。

図3-4は加入しているスポーツクラブの形態の年次推移である。今回の2018年調査では、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・チーム」（地域住民が中心のクラブ）が34.7%と最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ・同好会・チーム」（友人・知人が中心のクラブ）が25.9%、「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」（民間の会員制クラブ）が20.4%の順となっている。2002年調査以降、いずれの調査年も「地域住民が中心のクラブ」への加入率が最も高い傾向は変わってお

らず、2018年は2016年から2ポイントの上昇となった。なお、2012年から2014年にかけて「地域住民が中心のクラブ」の加入率が大幅に減少しているが、これは2014年調査から回答選択肢に「友人・知人が中心のクラブ」を追加した影響と考えられる。「地域住民が中心のクラブ」に次いで割合が高い「友人・知人が中心のクラブ」は、2016年から3.4ポイントの減少となる。また、「民間の会員制クラブ」の加入率も2016年24.4%から2018年20.4%へと4ポイント減少している。一方で「学校OB・OGが中心のクラブ」は、2016年2.6%から2018年6.0%に、「職場の仲間が中心のクラブ」は2016年7.2%から2018年10.6%へとそれぞれ3.4ポイントの上昇がみられる。



【図3-4】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態の年次推移

※その他：「学校のクラブ・サークル」「競技者の団体・クラブ」など

注1) 「友人・知人が中心のクラブ」は2014年調査から新たに追加した選択肢。

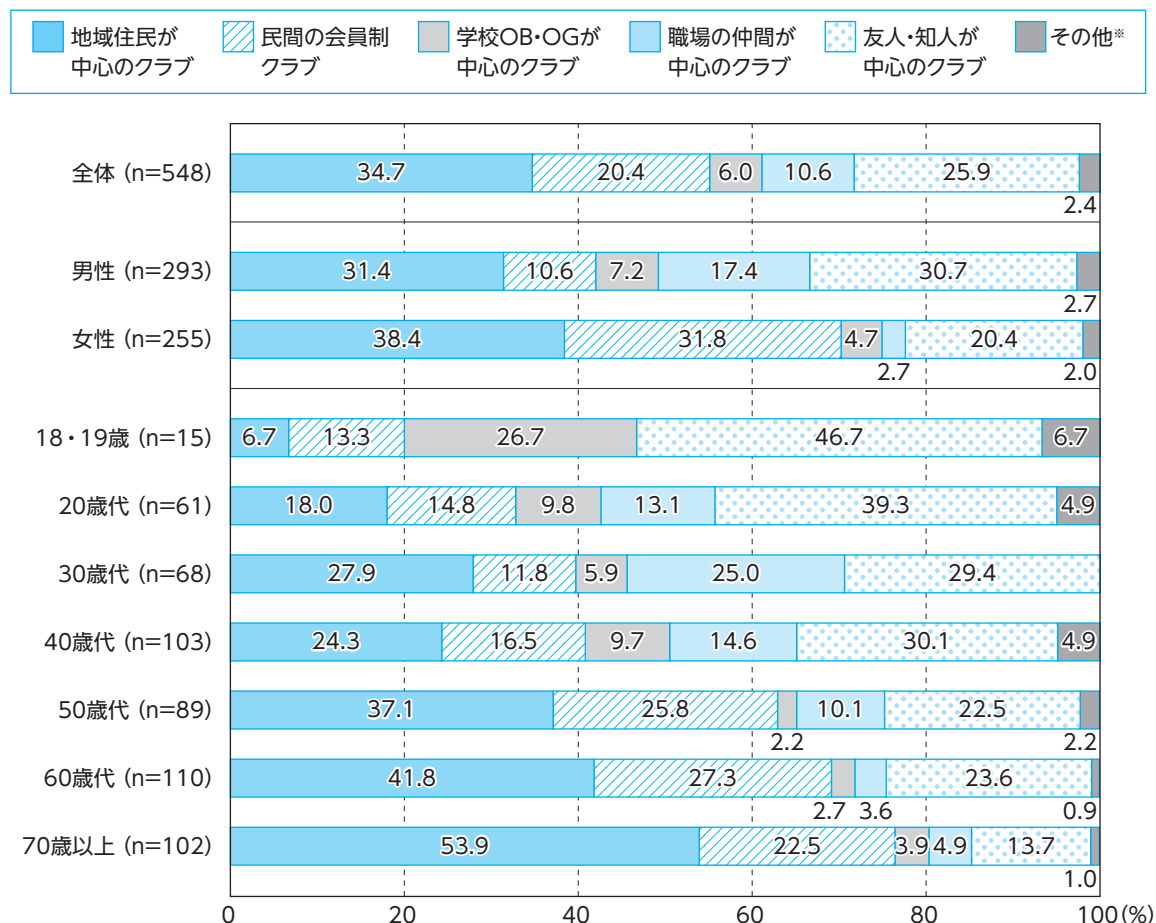
注2) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

図3-5には、加入しているスポーツクラブの形態を性別、年代別に示した。

性別にみると、男性は「地域住民が中心のクラブ」が31.4%で最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ」30.7%、「職場の仲間が中心のクラブ」17.4%、「民間の会員制クラブ」10.6%、「学校OB・OGが中心のクラブ」7.2%であった。女性も「地域住民が中心のクラブ」が38.4%で最も高いが、続いて「民間の会員制クラブ」31.8%、「友人・知人が中心のクラブ」20.4%、「学校OB・OGが中心のクラブ」4.7%、「職場の仲間が中心のクラブ」2.7%の順であった。男女で加入しているスポーツクラブの形態に違いがみられ、特に「民間の会員制クラブ」は、女性が男性よりも21.2ポイント高い。

年代別にみると、「地域住民が中心のクラブ」への加入率は40歳代24.3%、50歳代37.1%、60歳代41.8%、70歳以上では53.9%となり、年代が上がるにつれて高くなっている。これに対して「友人・知人が中心のクラブ」への加入率は、若年者層ほど高い傾向がみられ、18・19歳は46.7%、20歳代39.3%であった。30歳代は「職場の仲間が中心のクラブ」が25.0%と他の年代と比較して高い割合を示した。



【図3-5】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態 (全体・性別・年代別)

※その他:「学校のクラブ・サークル」「競技者の団体・クラブ」など

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

3-3 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入希望

現在、スポーツクラブ・同好会・チームに加入していない者（加入経験者および加入未経験者）に、今後の加入希望をたずね、図3-6にスポーツクラブへの加入希望率を性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別に示した。

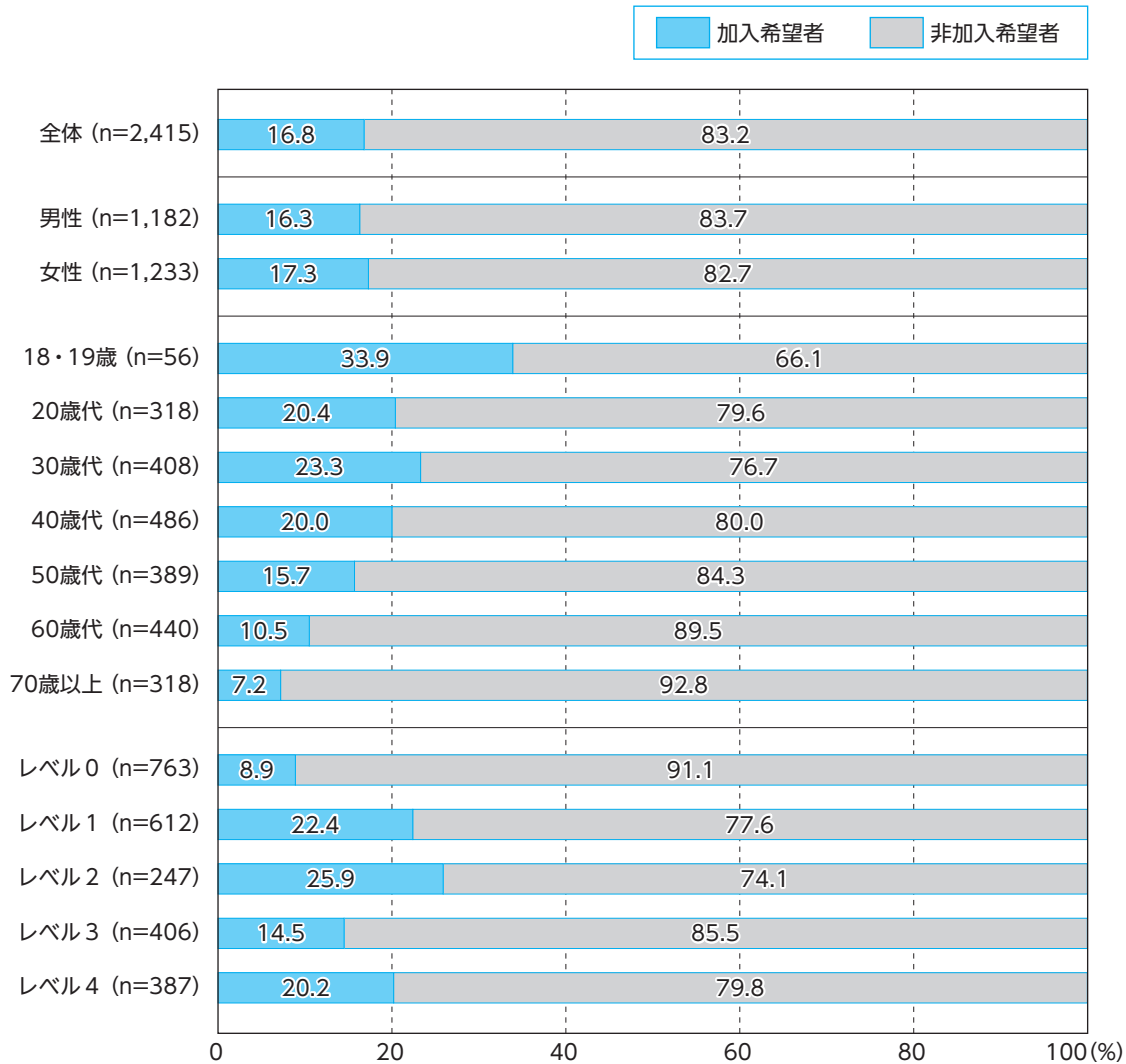
全体をみると「加入したいと思う」（加入希望者）は16.8%であり、「加入したいと思わない」（非加入希望者）は83.2%であった。なお、前回の2016年調査では、加入希望者19.5%、非加入希望者80.5%であり、今回の

調査では加入希望者が2.7ポイント減少している。

性別にみると、加入希望者の割合は男性が16.3%、女性が17.3%であった。2010年から2016年までは女性の加入希望率は20.0%を超えていたが、今回の調査では男女で大きな差はみられない結果となった。

年代別にみると、加入希望者の割合は18・19歳が33.9%と最も高い。30歳代以降、年代が上がるにつれて加入希望率は減少している。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」の加入希望率は8.9%に留まり、91.1%が非加入希望者である。



【図3-6】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入希望率(全体・性別・年代別・レベル別)

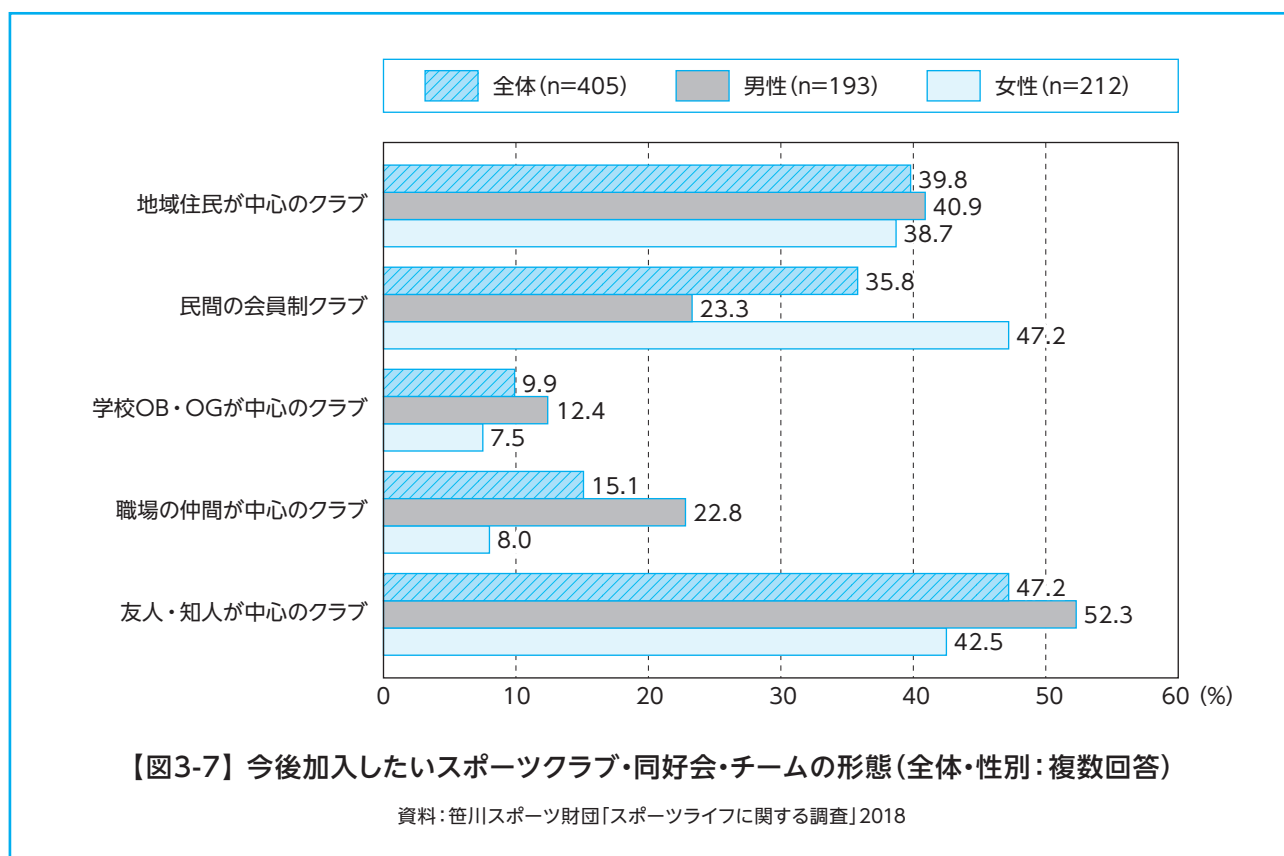
資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

さらに、加入希望者に対して、どのような人たちの集まりのスポーツクラブに加入したいかをたずね、図3-7に今後加入したいスポーツクラブの形態を示した。

はじめに、全体をみると「友人・知人が中心のクラブ」が47.2%で最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」39.8%、「民間の会員制クラブ」35.8%、「職場の仲間が中心のクラブ」15.1%、「学校OB・OGが中心のクラブ」9.9%であった。

性別にみると、男性では「友人・知人が中心のクラブ」

が52.3%と最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」40.9%、「民間の会員制クラブ」23.3%、「職場の仲間が中心のクラブ」22.8%、「学校OB・OGが中心のクラブ」12.4%の順であった。一方、女性は「民間の会員制クラブ」が47.2%で最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ」42.5%、「地域住民が中心のクラブ」38.7%、「職場の仲間が中心のクラブ」8.0%、「学校OB・OGが中心のクラブ」7.5%となり、男性は職場のクラブ、女性は民間の会員制クラブへの希望率が高い。



COMMENTS

- スポーツジムや公共のスポーツセンターは運動慣れしている人が多く、あまり運動をしてこなかった人は入りづらいです。年齢や性別、運動経験を問わず、気軽に体を動かせる場があればいいなと思います。(55歳 女性 専業主婦・主夫)
- 子どもの頃に広くスポーツに接する機会を増やすか、大人になっても初心者が参加しやすい団体があれば、スポーツに興味のある人がもっと増えると思う。(20歳 男性 学生)
- スポーツをいざするとなると場所や団体、そのレベルなど身近に活動されている方々の情報が手に入りにくいのが現状だと思います。様々な情報が手に入りやすくなればありがたいのですが。(59歳 男性 管理的職業)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018